

植物成長調整剤
プレリュード液剤
ベンジルアミノプリン液剤

平成29年8月30日付けで以下の通り適用拡大されました。

<変更内容>

- ・作物名「カーネーション」を追加する。

太字が拡大部分です。

作物名	適用場所	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数
カーネーション	-	側芽発生促進	300倍	6mL/株	側芽発生前	2回以内	茎葉散布	2回以内

<使用上の注意事項の追加>

- 8) 本剤をカーネーションに使用する場合には、次の注意を守ること。
- ①側芽の発生を促す節位を中心に散布すること。
 - ②同一節位への本剤の連続散布は、側枝発生過多、黄変、草丈抑制等の薬害を生じる場合があるのでさけること。
 - ③高温時に散布すると、葉に黄変、褐変等の薬害を生じる場合があるので、注意すること。
 - ④品種、栽培条件によって、薬害を生じる場合があるので、予め安全を確認の上使用すること。

【変更後】

- 1) 調製した薬液は放置すると効果が低下するので、調製当日に使いきること。又、調製液は日陰におくこと。
- 2) 他の農薬との混用はさけること。(ジベレリンに添加し、ぶどうに使用する場合を除く)
- 3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 4) 本剤をぶどうに使用する場合には、次の注意を守ること。
 - ①花振り防止に使用する場合は、常に花振りが発生する園のみに使用すること。
なお、ハウス初年度の木には使用しないこと。
 - ②無種子化処理の第1回ジベレリン処理液に混用して処理時期を拡大する場合、ジベレリン単用での処理適期より3~4日早く処理することができる。
 - ③所定の処理時期から遅れて処理すると着粒過多になったり、果粉の付着果房の着色が悪くなるおそれがあるので必ず適期に所定濃度で処理すること。又、処理適期がすぎたものには、使用しないこと。
 - ④ジベレリン処理液に添加した際、よく攪拌して使用すること。
 - ⑤上記注意のほか使用に当たっては、ジベレリンの使用上の注意を厳守して使用すること。
- 5) 本剤をりんごに使用する場合には、次の注意を守ること。
 - ①新梢が十分ぬれる様に散布する。
 - ②摘芯を行うとより効果的である。
 - ③作用が出にくい品種、つがる、王林等では、所定濃度の高濃度で使用する。
 - ④新たに伸長した新梢部に散布して側芽発生促進を行う場合、品種、使用地域によって使用回数、効果、薬害が異なることがあるので、地域指導機関の指導を必ず受けること。
 - ⑤苗木に使用する場合は、食用には供さないこと。
- 6) 本剤をアスパラガスに使用する場合には、若茎にかかると奇形を生じることがあるので茎葉下部への散布は控えること。
- 7) 本剤をきくに使用する場合には、無側枝性が強く発現する品種及び高温期の栽培では効果が劣る場合がある。
- 8) 本剤をカーネーションに使用する場合には、次の注意を守ること。
 - ①側芽の発生を促す節位を中心に散布すること。
 - ②同一節位への本剤の連続散布は、側枝発生過多、黄変、草丈抑制等の薬害を生じる場合があるのでさけること。
 - ③高温時に散布すると、葉に黄変、褐変等の薬害を生じる場合があるので、注意すること。
 - ④品種、栽培条件によって、薬害を生じる場合があるので、予め安全を確認の上使用すること。
- 9) 本剤をおうとう(苗木)に使用する場合には、次の注意を守ること。
 - ①未結果樹で使用すること。
 - ②葉に褐斑を生じる場合があるが、その後の生育には影響ない。
 - ③食用に供さないこと。
- 10) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

